

食卓から考える北海道の食生活と産業！

～地方別、よく食べる食品とあまり食べない食品の特徴と北海道～

1月号で地方別に支出額の上位下位にある食品数を数え、その特徴を整理した。今号は、地方別に最も支出額が大きい（よく食べる）食品名を見ながら、各地方と北海道の特徴を整理する。

食卓からかいま見える都市圏の生活

関東はもっともよく食べる食品数が51食品で最多であり、外食や調理食品への支出が多いのが特徴であった。調理食品では弁当、おにぎり、調理パンなど主食的調理食品が多く、さらに外食でも主食的な外食が1位である。食事を外食や、出来合いのものを買って済ませることが多いのであろうか。近畿は生鮮肉、乳卵類などの支出が最多で、生鮮肉では、牛肉が1位で「肉と呼ぶのは牛肉」が当然の関西圏を含む地方性が出ている。豚肉は関東が1位であり、「豚肉の関東、牛肉の関西」の特徴が統計上で現れている。

東海では外食の喫茶代が1位になっており、喫茶店王国と呼ばれる愛知県^{※1}などの特徴が見られる。

品数は少ないが特産品にこだわる東北、九州・沖縄

1位品目が少なく、9位品目が多い九州・沖縄については、酒類の焼酎が1位で他の清酒やワインが9位になっている。極端に言うところ「他の酒に目もくれず焼酎だけを飲む」という地方性が現れ興味深い。魚介類で見ると、あじ、さば、たいが1位なのはうなずけるが、たらこも1位であり、辛子明太子に加工して食べる九州（福岡）の特徴が出ている。1位の12食品に対し9位が49食品にもものほり、他の地方より突出して多い。「好きな食物に特化してよく食べる」と表現すると九州人の一途な人柄が思い浮かぶ。

東北も九州と似て、1位の食品数が少なく（11食品）、9位の食品数が多い（47食品）。りんごが1位なのは理解できる。かまぼこも1位で、仙台名物の笹かまぼこの影響だろうか。一方で東北は米どころだが、米の支出がもっとも少なく、前号で見た酪農王国北海道で牛乳への支出が最低だったのとよく似ている。

品数は中くらいでも、特産品に目がない中国、四国

中国地方は広島県特産のかき（貝）が支出額1位である。また、ぶどうも1位であり、岡山県はマスカットの主産地である。調味料の分野でソースが1位になっており、お好み焼きなどソースを使う献立が多いことが影響しているのだろうか。

四国ではうどん、かつお、みかんなどが1位になっている。うどん県で売り出している香川県のみかんうどんが有名で穀類及び外食分野でも1位になってお

地方別もっともよく食べる食品とあまり食べない食品

地方	1位食品	穀類	魚介類	肉類
北海道	42	米、即席めん	さけ、かに、他の鮮魚、しじみ、ほたて貝、他の貝、塩さけ、他の塩干魚介、魚介の漬物、他の魚介加工品のその他	他の生鮮肉、ソーセージ、ベーコン、他の加工肉
東北	11	カップめん	さんま、かまぼこ	
北陸	18	もち	ぶり、さしみ盛合わせ	
関東 (長野、山梨県を含む)	51	スパゲッティ、他のめん類、他の穀類のその他	まぐろ、あさり、干しあじ	豚肉、ハム
東海 (岐阜県を含む)	8		他の魚肉練製品、魚介のつくだ煮	
近畿	28	食パン、他のパン	たこ、えび、しらす干し	牛肉、鶏肉
中国	10		いわし、かき(貝)	
四国	20	生うどん・そば、乾うどん・そば、小麦粉	かつお、煮干し、揚げかまぼこ、ちくわ、かつお節・削り節	
九州・沖縄	12		あじ、さば、たい、たらこ	

※1 愛知県庁のホームページには、喫茶店の絶対数、人口当たり及び面積当たりの喫茶店数が上位にランクされていることが紹介されている。
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/0000078219.html> (2016年1月アクセス)

※2 「他の生鮮肉」総務省統計局の内容例示では、牛肉・豚肉・鶏肉・合いびき肉に分類されない鳥獣肉、鶏獣の臓もつなどである。
<http://www.stat.go.jp/data/kakei/kou22/zuhyou/kouh02.xls>

り、家庭でも外でもうどんを食べている姿が目につく。柑きつ類は愛媛県が主産地であり、生産が消費に直接結びついている。

大人気の北海道の「食」のわけ

さて、北海道は食品細目で関東に次いで1位項目が多く、米が1位、牛乳が最下位であることを前号で述べた。魚介類では、9食品が1位で2位四国の5食品を大きく引き離しており、また鮮魚、貝類、塩干魚介の消費が多いにもかかわらず、魚肉練製品や魚介加工

品に1位品目の食品が無いのは、北海道が加工業に弱いこととの関連があるかもしれない。

肉類のうち生鮮肉では「他の生鮮肉^{*2}」が1位になっているのは、ジンギスカンのラム肉を指していると推測できる。酒類ではビールとウイスキーが1位であり、これも主産地との関係が強いといえる。

多種類の新鮮な魚と野菜が、ドンッと食卓に並ぶのが北海道の特徴のようである。

(9 地方で支出額 1 位と 9 位 (一部抜粋) を列挙)

乳卵類	野菜・海藻	果物	油脂・調味料	菓子類	調理食品	飲料	酒類	外食	9位食品
バター、 他の乳製品	キャベツ、ほうれんそう、 他の葉茎菜、だいこん、 たまねぎ、他の根菜、 なす、ピーマン、梅干し	かき(果物)、 メロン、 キウイフルーツ	食塩、ケチャップ、 マヨネーズ・マヨネーズ風調味料、 カレールウ、つゆ・たれ	ケーキ、 スナック菓子、 キャンデー		炭酸飲料	ビール、 ウイスキー	すし(外食)	牛乳、 他 (17食品)
	納豆、こんにゃく、 だいこん漬、わかめ	りんご、 他の果物			ハンバーグ			中華そば	米、 他 (46食品)
	他のきのこ、こんぶ、 他の乾物・海藻、 油揚げ・がんもどき	オレンジ、 なし、 すいか	ふりかけ	他の和生菓子、 ケーキ	カツレツ、 天ぷら・フライ、 やきとり		清酒	学校給食	ちくわ、 他 (15食品)
ヨーグルト、 チーズ	ブロッコリー、他の葉茎菜、 にんじん、さやまめ、 かぼちゃ、きゅうり、 トマト、他の野菜のその他、 干しのり、わかめ、 他の野菜の漬物	グレープフルーツ、 果物加工品	ドレッシング、 ジャム、 乾燥スープ、 他の調味料	ようかん、プリン、 せんべい、ビスケット、 チョコレート、アイス クリーム・シャーベット、 他の菓子	弁当、おにぎり・その他、 調理パン、他の主食的調理食品、 サラダ、 しゅうまい	緑茶、紅茶、茶飲料、 果実・野菜ジュース、 ミネラルウォーター、 他の飲料のその他	ワイン、 他の酒	他のめん類外食、 他の主食的外食、 飲酒代	即席めん、 しょう油
				ゼリー				和食、中華食、 洋食、ハンバーガー、 喫茶代	ごぼう、 他 (20食品)
牛乳、 卵	はくさい、ねぎ、じゃがいも、 れんこん、たけのこ、 生しいたけ、他の野菜のその他、 豆類、他の大豆製品、 こんぶつくだ煮、 他の野菜・海藻のつくだ煮	バナナ	マーガリン、 酢	他の洋生菓子	すし(弁当)、 うなぎのかば焼き、 コロッケ、 他の調理食品のその他				天ぷら・ フライ、 他 (6食品)
	豆類、はくさい漬	ぶどう	ソース	まんじゅう	冷凍調理食品	ココア・ココア飲料	発泡酒・ ビール風アルコール飲料		トマト、 他 (9食品)
	さつまいも、豆腐	みかん、 他の柑きつ類、 もも	食用油、 しょう油	カステラ		他の茶葉、 コーヒー、 乳飲料		日本そば・ うどん	チーズ、 他 (22食品)
粉ミルク	もやし、ごぼう、 干しいたけ		みそ、 砂糖			乳酸菌飲料	焼酎		清酒、 他 (48食品)

①家計調査結果(総務省統計局)の「都市階級・地方別1世帯当たりの品目別支出金額 合成表・総世帯」(平成24年計・平成25年計・平成26年計)を加工して作成。
<http://www.e-stat.go.jp/SG1estat/List.do?lid=000001129439>からアクセス。1人当たりの支出額は、総務省統計局の調査結果の1世帯当たりの支出額を世帯人員で割り戻して計算し、その上で、平成24、25、26年3カ年の支出金額を抽出率調整した世帯数分布で加重平均して算出した。

②本表は、9地方のうち1人当たり支出額が1位となった食品細目を列挙した。なお、9位(最下位)の食品は一部のみ抜粋した。